

平成24年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力を身に付けさせる。 2 専門学科の充実と発展に努める。専門教科・普通教科の学習を通して、生徒の実態に即した適切な指導を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。 3 特別活動等を通して、豊かな心をはぐくみ健全な心身の発達を促す。 4 地域に根付く後継者の育成と地域の文化を支える能力の育成を図る。	[成果] ・教材・授業方法を工夫することで基礎基本を重点に置いた授業展開ができた。 ・卒業生すべての希望進路の実現ができた。 ・専門学科の授業を通して理論と実践を結びつけながら、専門教育の充実が図れた。 [課題] ・生徒個々の実態を把握することで中途退学の防止を図る ・1年生よりキャリアガイダンスの充実を図る	1 基礎学力に重点を置いた教材の準備や指導方法の工夫。 2 地域との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。 3 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 4 学校行事の充実・活性化を進める。 5 課題をかかえる生徒に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路の実現を図る 6 安心安全な学校づくりを進める。

※ 総合評価 A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 D ほとんど達成できなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校教育目標の具現化に努める。	学校経営改善のための積極的な取組を進めることにより、すべての分野で前進させる。 定期的な教育実践の点検・検証	B B	分校の特徴を生かした週1回の職員会議また計画の基づいた職員研修を通じて教職員の意志疎通を図り、共通認識のもと計画的な教育活動を進めることができた。
	組織体制を機能的にする。	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、相談の徹底 教育活動全般の組織的・計画的実践 教職員協調・協力の下、教育活動を進める。	B B	
教育課程	生徒及び地域の実態を踏まえ、学校の特色を生かした教育課程を編成する。	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。	B	入学生徒の実態に合わせた教育課程を見直すことができた。平成25年度についても生徒の実態に合わせた教育課程を編成している。今後少人数の選択科目など検討を重ねさらに改善していきたい。
		生徒の進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。 前年度の評価・反省に基づく改善を行う。 適切な教育課程になっているか、常に点検をする。	B B B	
教科指導	各教科の目標を明確にし、計画的な指導を行う。	年間指導計画に基づき、計画的に指導を行う。 授業公開・授業研究を通して、授業改善に取り組む。 常に、生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。	B B B	
	学力の充実・向上	各学期末毎に年間指導計画の点検を行い、必要に応じて随時見直す。 常に、生徒の理解度を把握して指導する。 学習習慣を確立させるための手立てを講じる。	B B B	
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。 担任団でホームルーム経営の相互評価を行い改善・工夫に努める。 ガイダンスの機能の充実の取組を進める。	B B B	文化祭では、生徒会を中心に全校生徒がまとまり、盛大なものとなった。その他の学校行事でも、学年関係なく生徒同士が関わり仲を深めながら取り組み、充実していた。今後は生徒会を牽引するリーダーの養成が急務である。
	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭を全校あげて取り組み、成功させる。 学校行事等で一人一人が主役になれる指導を進める。	B B	
	自主的な生徒会活動を目指す。	生徒会活動を通して自主的な力を付けさせる。 各局の活動の見直しと精選を進める。	B B	
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に即した希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。 希望進路の把握と指導を強化し、主体のガイダンス・個々の指導を充実させる。 口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。	B B B	4年生の進路について早期から指導することにより、全員が希望通りの進路先を決定することができた。下級生についても早期より進路を意識づけするために外部講師を招いて進路説明会を実現することができた。
			B	

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
生徒指導	問題事象の未然防止、早期発見ができる体制作りを進める。	各分掌との連携を深め、問題行動の予防や、早期発見に努める。 地域や関係各機関との連携を密に問題行動に対し素早く対処できるようにする。 社会的常識が理解でき、実践できるよう言葉使いや身だしなみなどを指導する。	B B B	B	生徒・教師間の信頼関係を構築することに日常努力した。問題事象は、1学期、3学期に多く発生した。可能な限りすみやかに対応し、問題の解決に努めた。団体鑑賞が行えなかったが、来年度は、実施したい。
	深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	相手を思いやる心を育て、いじめを許さない態度を身に付けさせる。 問題事象の具体的指導を通じて生徒自身の内面に迫り、よりよい人格の形成を目指 健全な文化に触れさせ豊かな人間性を育成する。 挨拶に始まる日常的な声掛けから、生徒・教師間の信頼関係を深める。	B B C B		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	身近にある差別問題や自分を取り巻く社会の矛盾と人権問題について学習する。 自分たちの進路と人権問題の関わりを明確にし、差別のない明るい社会を切り開く能力を身に付けるための学習を行う。	B C	B	人権学習は各学年の実情にあった内容で行えた。しかし、その学習内容が日頃の生活の中で有効に機能したかについては不十分な状態である。生徒各人が、日頃から強い人権意識を持てるような指導が今後の課題である。
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。 教職員が基本的な人権や人権問題について認識を深めるために校内研修を実施したり、情報を発信	B B		
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	「読書ニュース」や「おすすめ図書冊子」等を発行し、読書への興味を持たせる。 図書及び図書室の整備を行い本を読みやすくする。	C C	C	生徒が興味を持つであろう閲覧用図書や雑誌を購入したが、利用状況はさぶる悪い。生徒の読書意欲をどう持たせるかが課題である。
		幅広い分野の図書・視聴覚教材を購入する。	B		
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備する。	セキュリティ対策に努める。 パソコン及び周辺機器の環境を整え、情報科目を充実させる。 分校ホームページの更新を積極的に行う。	B B B	B	情報管理については常から注意を喚起した。学校のホームページ更新やPTAお知らせメールの活用がうまくできなかった。校務システムの活用が軌道に乗り始めた。
		学校の課題にあわせた校内研修を行い、指導力の向上を図る。 公開授業や定通研を通して、指導の充実を図る。 外部講師などにより、研修の充実と工夫を図る。	B B B		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高めるために体の健康と心の健康に関する指導をする。	健康・安全に関する教育を計画的に進める。 生涯の健康保持増進につなげる実践的な健康指導の充実 スクールカウンセラーを活用し、充実した教育相談体制を確立する。	B B B	B	禁煙教育をはじめ、学年ごとに計画的に様々な健康学習に取り組み、生徒の一定の知識となり、理解を得た。課題を持つ生徒が多数、スクールカウンセラーの援助を受けた。
		一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。 地域や関係機関との連携を密にする。 防災教育等防災教育を計画的に進める。	B B C		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	地域や関係機関との連携を密にする。 防災教育等防災教育を計画的に進める。	B B C	B	教職員が交代で直直に当たり、帰宅直前に校内点検・見回り日常の点検を実施した。生徒への防災教育や避難訓練等未実施に終わった。
		農薬に関する専門知識や技術の学習を通して生きる力を身に付ける。 チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。 個々の生徒の実態に応じた学習内容の工夫をする。	B C C		
農場部	地域の発展を考え、実行できる意欲と能力を育てる。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。 農業クラブ活動を活発なものにする。 地域での農産物の販売を積極的に行い地域からの評価を得る。	B C C B	C	実習を中心とした実践的な授業を展開することができた。しかし、年々支援を必要とする生徒の割合が増加し、効果的な指導法の研究が今後の課題である。学科発表会の取り組みを通して、プレゼンテーション能力を高めることができた。農業クラブ活動については、生徒の自発的な取り組みを増加させることが今後の課題である。
		家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。 学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	B B B B		
家政科	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	学習効果をあげる適切な教材を工夫する。 体験的な学習の機会を設定する。 学習の遅れがでないよう適切に補習を実施する。 福祉施設等の協力を得て地域での実習を实践する。 4年間の集大成として課題研究に取り組む。	B B B B A	B	個々の生徒の個性を理解し、伸ばす指導ができた。特に、4年生は4年間の指導を通して課題研究に取り組み一定の成果を得ることができたと考えている。3年生については入学当初から課題を抱えており、来年度は最高学年としてどのような取り組みをさせるかが課題である。

評価領域	重点目標	具体的方策			
第1学年部	基本的な学力や生活習慣を身に付け、学習及び就労に積極的に取り組む。	生活習慣を確立させる。	C	B	一部生徒が生活習慣を確立できていないので、家庭と協力して改善する必要がある。基礎学力をつけるために基礎補習や課題への取り組みが行われているが定着には時間がかかる。求人が少なく、本人の希望もあり、未
		基礎学力を身に付けさせる。	B		
		就労や学校行事等を通して、美山分校の生徒としての自覚をもたせる。	B		
		家庭との連携を深める。	B		
第2学年部	他人を思いやり、けじめのある学校生活を送らせ、学習に励ませる。	命・人権を大切にし、他人を思いやる心を育てる。	B	B	個々を認め合う学習、生徒同士が協力・団結する場を設け、1年次よりも学級内の人間関係を深めることが出来た。生活規律や基礎学力の定着には個人差があり、今後も家庭・教科担任の協力を得ながら継続的な指導をする必要がある。
		安全にバイク通学できるよう、交通規則の遵守を指導する。	B		
		けじめのある学校生活をおくり、基礎学力の充実をめざす。	B		
第3学年部	他人を思いやり、責任ある行動をとれるよう上級生としての自覚を育てる。	学校の中核となる自覚を持ち、責任ある行動をとる。	C	B	生徒会活動など上級生として取り組む姿勢がみられたが、遅刻や欠席が多いなどの課題を残した。ホームルームや個人面談等を通して、進路を考えさせることができた。就労が困難な生徒も多いため、早期から進路部や保護者と連携を密に行う必要がある。
		他人を思いやり、人権を大切にすることを意識を持たせる。	B		
		自らの進路希望を具体化させる。	B		
第4学年部	進路目標実現に向け、あらゆる活動を通じてよりよい人格の形成を促すことを目指す。	授業を大切にし、日常生活においても自覚ある行動をとる。	B	B	上級生としての自覚を持たせることができた。早期からの家庭との連携により、全員の進路実現が決定し、互いに協力し合い高め合う姿が見られた。進路決定後も家庭連絡を継続的に密に続ける必要がある。
		他人を思いやり、人権を大切にすることを意識を持たせる。	B		
		最上級生として、リーダーシップを発揮し、下級生の手本となる行動をとる。	B		
		家庭との連携を強める。	B		
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じたプリントや副教材の準備等の工夫をする。	B	B	生徒の授業への興味を持たせ、学力向上のための工夫をした。具体的にはプリントの作成、質疑応答を点数化し、授業への積極的な参加を促す等である。
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行い、随時国語常識学習も行う。			
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。			
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。	B	B	生徒が高校数学を理解し易いように、予備知識を十分予習して授業に入るように工夫した。また、理解不十分な生徒に対しては個別に指導した。その中には個々の生徒の弱点等を把握しながら、効果的な指導に心掛けた。
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。	B		
		演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。	B		
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。	B		
保健体育科	生涯を通して継続的に運動できる能力と態度を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	学期に1回レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる。	B	B	生涯を通じて継続的に運動できる能力を身につけるため、様々な種目に取り組んだ。持久走では、授業を通して記録を更新する者が多く精神的にも粘り強さが身に付いた。持久走では、声を掛け、お互い励まし合いながら取り組めた。
		2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。	B		
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。	B		
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。	B		
		教科保健を通じて環境問題・健康問題を解決できる教養を身に付ける。	B		
英語科	中学校の学習を踏まえながら、四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	4技能(聴く、話す、読む、書く)をバランスよく学習させる。	B	B	4技能をバランスよく教授することができた。AETとの授業においては、自己表現活動を多く取り入れ、実用的な英語に接する機会を増やした。必要に応じて、補充指導も実施した。
		生活に根ざした自己表現活動を積極的に取り入れる。	B		
		学習遅滞生徒に対して、年間を通じた補充指導を行う。	B		
		1年次は中学校の復習に力点を置き、基礎学力の向上を目指す。	B		
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する。	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える。	B	B	個人情報の管理には細部にわたり注意を払った。文書の作成起案回議は適切に行われた。校務システムを導入し成績処理に活用した。
		文書は適切に作成、起案、及び回議する。	B		
		成績処理のネットワーク化を進める。	B		
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。	B	B	担任を中心として家庭との連絡を密にした。育友会活動は積極的な学校行事への参加がみられた。学科の特性を活かした地域との連携を実施した。
		地域社会・関係諸機関等の行事に参加するなど積極的に連携する。	B		
		育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。	B		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学力差のある生徒への指導が生徒の個性に応じた形でできている。 ・不登校傾向のあった生徒が学校へ来られるようになってきている。 ・生徒の上下関係が良好で、みんなが自分を出せている。 ・学校行事を通して生徒が変わった姿をいろんな人に見てもらおうようにしたらい。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒指導・学習指導・進路指導等教育活動全般について、家庭とも連携させた個に応じたきめ細かな指導の取り組みを図る。 ②多様な生徒の将来の進路を見据えて関係機関との連携を深め、学校としての対応を図る。 ③学校から家庭や地域に積極的な情報の発信を図る。 ④地域の自然や人材を活用した教育活動の推進を図る。 				